

山岳スポーツの歴史と文化を地域の観光振興に活かす 「白馬・山とスキーの総合資料館」運営事業

取組に至る背景・事業の目的

- 観光産業の再生が地域の重要な課題となる中、当会では平成22年7月、白馬村の財産である山岳スポーツと芸術、生活文化の歴史・民俗資料等を体系化し、更に新しい文化創造の活力源としていくことを目的に、「白馬・山とスキーの総合資料館」を設立した。
- 平成23年度は、この施設を新しい山岳観光地の拠点とすべく、歴史を物語る貴重な資料を収集・展示して地域観光の振興に役立てるとともに、スキーや山岳の歴史を次世代に伝承するために各種事業を実施した。
- 本事業を通じて、地域住民自らが、故郷を愛する心に根差した主体性と協働の精神を持って、未来に向けた活力溢れる地域づくりを進めていきたい。

事業内容

- 山とスキーの図書室 書棚整備
スキー・山岳等に関する約5,000冊の蔵書を一般に公開するため、新たに書棚を整備した。
- 白馬・山とスキーの総合資料館 展示資料整備
「日本スキー発祥100周年 白馬八方の歩み」を年間テーマに掲げ、常設ブースの再編成を行った。
- 企画展
スキー伝来100周年記念公開セミナーを開催し、併せて企画展記念冊子・資料館ニュース等を発行した。
- 文化事業
四季山の体験事業、白馬八方里山フェスタ等を独自に企画・実施した。
- 上記に関連するポスター・パンフレット等の制作



【地元小学生の課外授業(スキー資料館)】

事業効果

- 年間来場者数(H23) 3,858名(前身の八方民俗資料室の来場者数:年間100名程度)
課外授業で来館した地元児童・生徒は約180名。地元の山案内人や往年のスキー指導員も協力して子供たちの受け入れや説明を行った。スキーや山岳の歴史を知り、故郷の伝統や文化を次世代に継承していくという意味で、大きな効果があった。
- 地域の特色ある観光ポイントとして定着
白馬村の山里文化と山岳スポーツの情報拠点として認知されつつあり、雨天時の来館者も増えたことから、自然志向型観光地の課題であった悪天候時の誘客対策にも効果があった。
- 地域住民による協働意識の醸成
事業の運営に参画することを通じて、住民の間で地域文化への理解が深まり、連帯感が生まれた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 静的な展示にとらわれず、運営団体の活動に直接触れてもらうことで動的な情報発信を心掛けた。
- 資料館事業が安定して継続していくためには、運営資金の確保、展示情報の定期的な更新、学芸員の設置、独自の調査研究活動の実施についても対策を講じていく必要がある。
- 今後さらに、地域住民自らが地場の文化とスポーツの体験・実践に広い世代で取り組み、情報発信を行うとともに、地域の特色の継承者を育成していきたい。

【選定のポイント】

地域の歴史・文化を継承するための拠点施設として、また、荒天時の観光施設として定着してきている。地元小中学生の課外授業の場としても活用されており、次代を担う子どもたちが地域を学ぶ貴重な機会となっている。

団体名 財団法人 八方振興会 (白馬村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0261-72-2477	事業費	3,324,448円
	支援金額	2,930,000円